





赤ちゃんが安全に過ごすために

子どもは運動機能の発達とともに、いろいろなことができるようになります。その一方で様々な事故に遭うおそれが出てきます。

成長にともなって起こりやすい事故について、知っておきましょう。

	誕生	3か月	4か月	5か月
発達の目安		手足をばたばたさせる 	首がすわる	離乳食がはじまる 口の中に物を入れる 見たものに手をだす
窒息・誤飲	うつぶせで寝て、顔が寝具に埋もれる 掛け布団、おもちゃ、スタイによる窒息 家族の身体一部で圧迫 ミルクの吐き戻しによる窒息		なんでも口に入れる	
転落	抱っこ等での転落	ベッド・ソファからの転落		
やけど	熱いミルク 熱い風呂		ポット、食卓 アイロン	
溺水事故			入浴時の事故	
切り傷・打撲				床にある鋭いもの
車での事故	チャイルドシート未使用による事故 車内での熱中症			

こんな場面に注意しよう！

ベビーベッドに寝かせるときは、必ず柵を上げましょう

ベッドからの転落事故は、少し目を離れた際に起こっています。

ソファなどの高いところに寝かせるときは、目を離さない

3か月くらいになると、手足をばたつかせて体勢がずれることがあります。

ベビーベッド柵とマットレスの間に、隙間を作らない

ベッド柵とマットレスの隙間に頭が落ちて、赤ちゃんが窒息する可能性があります。

赤ちゃんの顔の側にぬいぐるみや柔らかい布は置かない

ぬいぐるみ等が鼻や口をふさいで、窒息の可能性があります。

赤ちゃんの手が届くところに物を置かない

特に5か月以降で誤飲の事故が多いです。小さい物、危険な物は置かないようにしましょう。

赤ちゃんを抱っこしながら、熱いものを触らない

誤って赤ちゃんに熱いものをかけてしまい、やけどに繋がります。



もしもの時の、相談先

気を付けていても、事故が起きてしまうことはあります。

子どもの意識がない・呼吸をしていない場合があれば、迷わず 119 番しましょう。

救急車を呼ぶほどではないが、対処に迷う場合は、かかりつけ医や以下のような相談先談に相談しましょう。

◆こどもの救急

小児科医が監修したホームページで、症状別チェックによる対処法を確認できます。

◆こども医療電話相談 TEL：# 8000 または TEL：524-7856

平日：午後6時から翌朝8時まで

日曜・祝日、年末年始（12/29～1/3）：午前9時から翌朝8時まで

夜間や休日の子ども（15歳以下）の怪我や急病で病院にいったほうがいいか迷ったときに相談できます。

◆大阪中毒 110 番 TEL：072-727-2499

化学物質（たばこ、家庭用品など）医薬品を誤嚥した際や動植物の毒などによる急性中毒について相談できます。